

## 近畿産業考古学会

The Kinki Industrial Archaeology Society

## 第134号

## 目次

1. 【お詫び】「前ユニチカ記念館シンポジウム」のご案内について・・・1
2. はがね歴史記念館の見学会・・・1
3. 学会誌『近畿の産業遺産』第18号 原稿募集・・・2
4. 2023年度年次大会（予告）・・・2
5. 尼崎市立歴史博物館第9回企画展  
「尼崎紡績一工都尼崎のはじまりー」を見学して  
・・・寺島俊之・・・2
6. 今津灯台移設工事  
NPO 法人阪神文化財建造物研究会 大塚高史・・・3
7. 【出版物紹介】『絵葉書で訪ねる北陸・中部地方の橋』  
・・・3
8. 2023年度第1回役員会議事録・・・4
9. 2023年度第2回役員会議事録・・・4
10. 入会者・・・4

## 【お詫び】

「前ユニチカ記念館シンポジウム」のご案内について  
前号において10月22日(日)に開催される標記シンポジウム(会場：尼崎市立歴史博物館、主催：日本建築学会近畿支部・尼崎市教育委員会)の予告記事を掲載し、その中で詳細を今号でご案内する旨、お知らせしていました。しかしながら、主催者による募集開始後、短期間で定員に達し、すでに受付を終了しています。応募のアナウンスに不手際がありましたこと、お詫び申し上げます。

本会では6月に2回、見学会を実施し、参加者全員からご意見を伺う機会を設けましたが、ご意見やご提案をおもちの方は、本会事務局までお申し出下さい。極力、ご希望に添えるように対応させていただきます。

このシンポジウムは日本建築学会が全国規模で企画している「建築文化週間」の一環として開催されている行事

で、本会は後援しています。詳しくは下記サイトをご覧ください。

日本建築学会近畿支部HP：<http://kinki.aij.or.jp/>

## はがね歴史記念館の見学会

日本鑄鋼所は1899(明治32)年、日本最初の民間製鋼所として開設され、1901(明治34)年、住友家を買収されて住友鑄鋼場となった。同場は1907(明治40)年、此花区島屋町(現・日本製鉄関西製鉄所製鋼所地区)に移転し、1920(大正9)年に住友製鋼所と改称した。他方、住友家は、住友伸銅場を1897(明治30)年に創業し、住友伸銅所へ改称後、1926(大正15)年、住友伸銅鋼管を発足させていた。1935(昭和10)年、住友製鋼所と住友伸銅鋼管が合併し、住友金属工業の発足に至る。銅の精錬から始まり、伸銅品・鋼管の製造に至る住友グループの歴史をたどる。

開催日：11月1日(水)

集合：阪神電鉄・阪神なんば線「伝法」駅、13:00

主な見学先と行程：

- ・「伝法」駅付近(約60分)：日本鑄鋼所跡(伝法小学校内、石碑)、旧鴻池本店・旧鴻池本宅(外観)、鴉宮神社 濤標住吉神社など
  - 電車での移動(約20分)：「伝法」駅→JR西日本・桜島線(JRゆめ咲線)「ユニバーサルシティ」駅
  - ・此花区工業地帯の景観(USJ入口脇通路から展望)、巨大パネル(142枚、産業・工場関係の展示もあり、日本製鉄関西製鉄所製鋼所地区・南側堺)
  - ・「はがね歴史記念館」(日本製鉄関西製鉄所製鋼所地区、展示見学)15:00から
  - ・ガソリンカー転覆事故慰霊碑、汽車製造大阪製作所跡(新大阪郵便局)
- 桜島線「安治川口」駅にて16:00過ぎに解散。  
資料代：500円

参加希望者は10月25日(水)までに、事務局宛にメールかFAXにてお申し込み下さい。



写真1 日本製鉄関西製鉄所製鋼所地区(撮影:2022/02/25)

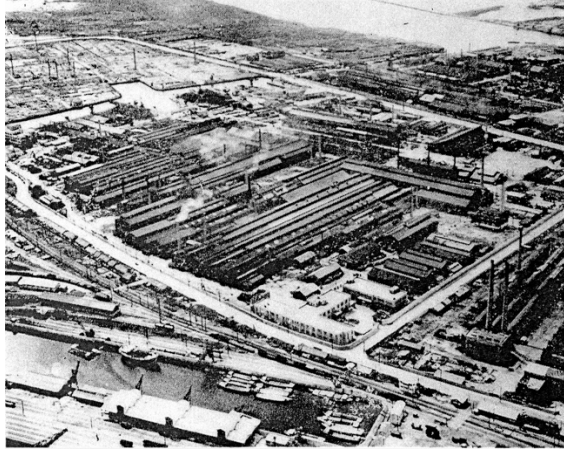


写真2 戦前の住友金属製鋼所(大阪市此花区役所編『此花区史』1955年より)

**学会誌『近畿の産業遺産』第18号 原稿募集**

『近畿の産業遺産』第18号の原稿を募集します。多くの会員の投稿をお待ちしています。奮ってご応募下さい。資料の紹介など、論文形式ではないものでも結構です。

・申込締切日:

論文(査読付き); 2023年12月31日

調査報告・研究ノートなど、論文以外; 2024年2月28日

**2023年度年次大会(予告)**

琵琶湖疏水は2020(令和2)年、文化庁から本遺産に認定され、疏水沿いを「フィールドミュージアム」と位置づけ、魅力を発信する試みがなされています。その観点から改めて関連施設を見学し、その取り組みについて学びます。

開催日: 12月2日(土), 午前中: 見学会, 13:30~: 特別講演会・研究発表

会場: 京都市国際交流会館 第4会議室(疏水記念館南隣)

見学先: 鴨川運河, 蹴上インクライン・ドラム工場, 疏水記念館特別展「鴨川運河の誕生」(文化庁京都移転記念) など。詳細は次号でご案内します。

**尼崎市立歴史博物館第9回企画展**

「**尼崎紡績—工都尼崎のはじまり—**」を見学して

寺島俊之

2019(令和元)年に公開停止となったユニチカ記念館を尼崎市が2023(令和5)年に取得したことを記念する企画展示が下記で開催されている。

会期: 2023年7月8日~9月3日

会場: 尼崎市立歴史博物館企画展示室

[展示内容]

■序章: 日本近代紡績業のはじまり

明治初頭における「紡績業ブーム」を背景に1889(明治22)年に尼崎紡績会社が設立された。

■第1章: 尼崎紡績の設立

尼崎商人や旧尼崎藩士と大阪財界の共同出資によって、尼崎初の近代的大工場が創業された。

■第2章: 尼崎紡績の発展

技術的に困難とされた高品位な綿糸の生産による他社との差別化と吸収合併によって企業規模を拡大した。1918(大正7)年には大日本紡績と改め、日本最大規模の紡績会社に発展した。

■第3章: 尼崎紡績の人びと

初代社長は大阪財界より広岡信五郎が務めた。一方、工場構内には寄宿舎が設けられ女性工員が全国から集められた。

■第4章: 大日本紡績尼崎工場の姿

昭和初期には約205,000㎡の敷地面積を誇り、工場構内には病院、寄宿舎、小学校等も設置された。しかし戦災焼失等の事情もあり1964(昭和39)年に工場閉鎖となった。

現在の小田南公園、大物公園や東部第二浄化センター等は大日本紡績尼崎工場の跡地に造られた。

■第5章: 尼崎紡績本社事務所の歩みと歴史的意義

尼崎市が保存と活用を目的として取得した理由は以下とされる。

①現存する尼崎市内最古の洋館建築であること。

②尼崎が工業都市として発展する契機となった象徴であること。

(所感)

会場には「大日本紡績尼崎工場模型(昭和初期頃)」の展示があり、工場構内を阪神電気鉄道伝法線(1924(大正13)年開通、現在は“阪神なんば線”と改称)の線路が通過する。工場と鉄道のどちらが先に建設されたかの説明があれば良かったと思う。

(見学・撮影: 2023年8月13日)



写真1 企画展・展示室(撮影: 寺島俊之)



写真2 大日本紡績尼崎工場模型 (撮影：寺島俊之)



写真3 兵庫県立尼崎工業高校生徒が製作した  
ユニチカ記念館の模型 (撮影：寺島俊之)

### 今津灯台移設工事

NPO 法人阪神文化財建造物研究会 大塚高史

#### 【今津灯台について】

今津灯台は、1810(文化7)年に、大関酒造の長部家5代目長兵衛が樽廻船で栄えた今津港に私費で建設した灯明台が始まりである。それから48年を経た1858(安政5)年には6代目文次郎が再建している。その後数次の修理があり、1965(昭和40)年には解体修理が行われた。

建物は木造袴腰付灯籠形で、石の基壇の上に建つ。当初灯器は油皿をツルベ式に滑車で引き上げ、周囲に油障子をかけて風雨を防ぐ行灯式であった。大正の初めに電化された際、油障子は除かれたが、その他はほとんど旧態のままである。多少後世の改修はあるが、古い行灯式灯台の遺例として文化史的意義が深く、西宮市の文化財(建造物)に指定されている。

航路標識として正式承認されている国内最古の木造灯台であり、日本遺産『「伊丹諸白」と「灘の生一本」下り酒が生んだ銘醸地、伊丹と灘五郷』の構成文化財にも選定され、文化財的価値はますます高まっている。



写真1 移設前の灯台(水門施工前)

#### 【移設計画】

新川・東川統合排水機場及び新川水門の整備により、現灯台位置は流入水路となり現地保存が不可能となる。

そのため、西宮市指定文化財である灯台を次代へ保存継

承し、また、航路標識の許可を受けた現役灯台としての機能を維持するべく、新川水門の外側である対岸への移築保存を行うこととなった。

移設にあたっては、建屋の解体を極力行わずに輸送できる方法を検討した結果、灯台全体を仮設架台ともそのまま吊上げて台船に積み込み、海上輸送する方針を取った。

去る9月1日(金)早朝、台船への吊込み・輸送が行われ、好天にも恵まれて、移設用地に隣接する灯台仮置場への移設が無事完了した。

今後は、基壇の石積み及び灯台の柱を支える石柱の移設の後、仮置場から移設後基壇上への灯台吊込み、公園整備と続き、2024(令和6)年2月には灯台の再点灯を予定している。



写真2 台船で運ばれる灯台

### 【出版物紹介】『絵葉書で訪ねる北陸・中部地方の橋』

(発行・編著：中元雄治)



これまで紹介してきた冊子「絵葉書で訪ねる橋」のシリーズである。編著者が所蔵する絵葉書の中から、江戸期から昭和期までに架けられた、北陸・中部地方の橋(失われた橋、重要文化財・登録文化財や土木学会の選奨土木遺産など)の絵葉書450葉が掲載されている。

(A4・60ページ、フルカラー、2023年6月20日発行)  
代金(1部)：1,500円、送料250円。支払方法：切手

申込・問い合わせ先： [E-mail] y52749n@yahoo.co.jp

## 学会誌の電子ジャーナル公開について

科学技術振興機構(JST)より提供された2023年7、8月分のアクセス統計(クローラーによるアクセスを除外)の概要です。

- 2023年7月(公開論文数:26) :  
書誌事項へのアクセス数:合計304回  
全文PDFへのアクセス数:合計373回  
(アクセス数が最も多かった論文:書誌事項;51回,  
全文PDF;54回)
- 2023年8月(公開論文数:26) :  
書誌事項へのアクセス数:合計207回  
全文PDFへのアクセス数:合計288回  
(アクセス数が最も多かった論文:書誌事項;28回,  
全文PDF;43回)

## 2023年度第1回役員会議事録

日時:5月17日(水),19:15~21:10,オンライン開催  
参加者:中山会長,岡田副会長,貝柄幹事,寺島幹事,二階堂幹事,溝口幹事,若林幹事

議事:

1. 前回役員会議事録の承認
2. 2023年度総会議案書書面議決  
31名(はがき15名,メール16名)が回答,全議案に賛成(役員候補者1名による役員案を除く)
3. 2023年度役員体制  
2022年度と同じ体制とする.事務局:中山会長,編集委員[学会誌]:貝柄幹事,中山会長,二階堂幹事(J-STAGE),[NL]:寺島幹事,二階堂幹事,若林幹事,[HP管理・オンライン会議]:貝柄幹事,見学:岡田副会長,二階堂幹事,溝口幹事,会計:二階堂幹事
4. 見学会  
• JR桜井線駅舎の見学会:5月27日(土),集合:12:30 近鉄橿原線「八木西口」駅または12:40 JR桜井線「畝傍」駅.  
• 前ユニチカ記念館の見学会:[1回目]6月6日(火),[2回目]6月13日(火),集合:13:00,阪神電鉄「大物」駅.NL132号で日程誤記があったので訂正はがきを郵送.
5. 2023年度年次大会  
開催予定日:11月18日(土),ハイブリッド方式で開催,見学会を実施.
6. 学会誌第17号原稿募集(報告)
7. 学会誌J-STAGE公開  
第1~6号および第16号岡田氏稿を公開.
8. ニュースレター132号  
5月17日頃に発行予定.
9. 調査・研究について(報告)

## 10. その他

中尾嘉孝氏から入会希望あり.河内晴彦会員から退会(今年度末)申し出あり.

次回役員会:7月15日(土),15:00~,大阪学院大学・職場会議室,対面で開催.

## 2023年度第2回役員会議事録

日時:7月15日(土),15:05~17:00,対面開催.

参加者:中山会長,岡田副会長,貝柄幹事,寺島幹事,二階堂幹事,溝口幹事,若林幹事

議事:

1. 前回役員会議事録の承認
2. 2023年度年次大会  
開催日を12月2日(土)に変更.
3. 見学会  
• JR桜井線駅舎の見学会:5月27日(土),参加者数;22名.「前ユニチカ記念館」6月6日(火),7名.6月13日(火):13名.  
• 次回:はがね歴史記念館の見学,実施候補日を①11月1日(水)②11月20日(月)として,担当者と調整.
4. 学会誌17号原稿提出状況  
原稿提出状況(敬称略):安田,二階堂・貝柄(提出済),寺島・中山(作成中)
5. 学会誌電子ジャーナル公開  
第7号を公開.論文の区分,J-STAGE公開の基準,著作権の扱い,他学会の事例などについて討議.
6. ニュースレター133号  
7月中旬に発行予定.
7. 学会新ホームページ  
NLバックナンバー,学会誌目次を公開など.
8. 調査・研究について(報告)  
次回役員会:9月6日(水),19:15~,オンライン

## 入会者

(敬称略,◇:関心のある分野)

平野 恭平(ヒラノ キョウヘイ)

◇繊維産業史

2023年9月30日発行

編集 近畿産業考古学会 編集委員会

発行 近畿産業考古学会 会長 中山嘉彦

URL: <http://kinias.jp>

事務局 564-8511 大阪府吹田市岸部南2丁目36番1号

大阪学院大学 経済学部 中山嘉彦研究室気付

Tel:06-6381-8434(代), Fax:06-6382-4363(代)

E-mail: [kinias-ec@nifty.com](mailto:kinias-ec@nifty.com)

会費納入先(郵便振替)

口座番号:00950-9-150085,加入者名:近畿産業考古学会